

令和元年度 第2回 亀山市立図書館運営委員会 会議録

日時 令和2年2月20日（木） 午後1時30分から

場所 亀山市立図書館 ミーティングルーム

出席者 図書館運営委員長 櫻井 賢哉
図書館運営委員 渡部 朱美
図書館運営委員 田中 愛子
図書館運営委員 中川 清裕

欠席者 図書館運営委員 川口 恭子

事務局 亀山市教育委員会
参事兼生涯学習課長 亀山 隆
図書館 館長 井上 香代子
図書館 主任主査 服部 由美

■開会

【事務局】 第2回亀山市立図書館運営委員会を開催。配布資料の確認を行う。

1. あいさつ

【参事】 あいさつ

【委員長】 あいさつ

2. 協議事項

(1) 蔵書計画（案）について

【事務局】 蔵書計画（案）の概要を説明。

【中川委員】 今まであいまいになっていた部分を明確に、こういうところを重点的に集めようという意味合いでお作りになるのだということで見せていただいた。

見ていると、細かくこういうものに関する資料と明確に書いてある部分と、そうでなくてどうとも読める部分が混在している感じがある。例えば、8ページの◆市民の居場所創出につながる資料の、市民が地域やまちの魅力を発見することで地域への愛着や誇りを持ち、学びと交流を通じたゆるやかな居場所づくりにつながる資料とか、地域の中で誰もが生き生きと暮らすための趣味、レクリエーションなどの資料、流行にとらわれることなく、個々の内面を磨き人生をより深め楽しむための資料、誰もが地域の

人々と出会い、地域社会に参加する場を提供するための資料や情報というところが、結局のところは何でもありになっている。

こういうものに重きを置いていくと具体化し、さらにこれを今後つなげていくことで、どんな運営体制になろうが、人が変わろうがこれをもとに本を選んでいくということであるとするならば、あまりぼやけたものは書かない方がよいのではないか。できるだけ具体的な例を挙げながら書いていく方が読むほうも入ってきやすいし、誰もが同じように本を選びやすいのではないか。特に、◆誰もが利用しやすい図書館を目指すための資料の、「すべての市民が等しく」というところは、自分が親しみやすいと思ったらよい、利用しやすいと思ったらよいと捉えられるので、少し気になった。

5ページの地域資料のところ、市内で発行された資料というのはよいが、本市域に関して記述のある資料を原則としてすべてとなっている。例えば、本が1冊あって、その中に1箇所だけ亀山市と書いてあったらそれをすべて集めるというように読める。それは本当にそれでよいのか。それではきりがないと思う。内容に亀山市のことがある程度書いてあるというようにしないと何でもかんでも集めなければならないし、地域資料はこの資料の中でも本当に重要性が高いので、全部買わなければいけなくて、本当に買いたい資料が買えないということになりがち。原則としてすべてということは一番強い。

どちらかというと行政資料を原則としてすべてと書いてもらいたかった。行政資料は図書館しか集められない。あとは、行政の情報公開部局とかになるかもしれないが、市民が気軽に見られるのは図書館なので、行政資料の方が原則としてすべてといえるのではないか。逆に市域に関して記述のある資料は、幅広く網羅的にというようにちょっとイメージとしては弱い感じになる。そのように思うが、事務局はどのように考えているか。

11ページの「永年保存対象でない資料」は、「永年保存対象としない資料」というように主体性を持たせた方がいいのではないか。図書館が主体的に永年保存対象としないとするほうがはっきりする。

【委員長】

具体的にご指摘いただいた内容が3点あったと思うが、事務局の見解はどうか。

【事務局】

ご指摘いただいたとおりである。

【中川委員】

すごくいろいろなものを入れているので、これだけでも大変だと思う。全部に気を配って本を選ぶことは大変である。普通に選んでいても大変であるので、この中で重みをつけるという意味で、

例えば、例えばという取捨選択というか重みづけは思い切ってもよいのではないか。

【委員長】 前段は割と具体的に書いてあるので整理がしやすい。後半になるとざっくりしている。

【中川委員】 何かと関連付けなければいけないということを意識して、多少無理やりになっているところがあるのかもしれない。

【委員長】 前半は一般的な資料、後半は亀山市独自の特色を出したいという思いがあって、議題の中でもそこをなんとか追及していきたいということだったが、言葉尻がなかなか出てこない。言うは簡単だが書くとなると難しい。

【中川委員】 基本的にベーシックなもの、図書館として全分野を対象にする。その中で、市の施策においてこれは図書館が十分に寄与できるジャンルであり、本を揃えることですごく意味があることだという分野を特記する。健康都市だと健康、まちづくりなど具体的に書き出すことで、市の施策に寄与するということを意識づけできるのではないか。

【委員長】 亀山市は人権や多文化共生も重きを置いているし、いろんな点で外しにくい。

【中川委員】 見出しについてはこの内容で大体よいのではないか。居場所創出につながる資料は何かとか、誰もが利用しやすい図書館のための資料は何かというのはすごく選びにくい。具体的に本のイメージができる人はなかなかいないのではないか。それが人によって一番揺れやすいところだと思う。何となく人権や多文化共生だと同じところに収束するが、居場所創出は人によって全然違うのではないか。

【田中委員】 健康都市については、すごく賛成である。亀山市は早くから健康面、育児面、医療面で進んでいた。他市町に引っ越した人も亀山市のほうがよかったという声も聞く。前に出して具体的に示したら魅力があると思う。医療機関と連携のもとでというのはすごいことだと思う。

【中川委員】 場合によってはアドバイスをもらって、より良い資料を集めることもできるかもしれない。なかなかそこまでやれている自治体は少ない。

【事務局】 例えば、何月は生活習慣病についてみんなで考えようとか定期的に予定を組みながら、資料が揃っていて連携して講座を開設するなど役に立つような内容を図書館側からも発信できるのではないか。例えば、医療センターの医師が書いている資料があれば置いてあるのは当然だろうし、こういう食生活には気を付けると身体に良いというようなことも、関連する資料とともに発信してい

けると思う。

今回、議題をあげさせていただいたのは、いままで蔵書に対するこのような指標が作られたことは一度もなかった。地域資料がちょっと弱いということもあり、その辺りを中心に整理していきたいという思いがある。

【田中委員】

今まではなかったのなら、どうやって資料を集めていたのか。みんなで相談しながらだったのか。

【事務局】

ある程度の共通認識があって行っている。

【田中委員】

かつて関小学校で整理をしている時に、同じように蔵書問題があり、あれもこれも置いておきたいという声もあったが整理をした。人によって考え方が違うので、わりとざっくり考えて処分したい人も、残したい人もいて難しかった。学校にも基準はなかったのだと思う。なかったので、相談しながら決めていた。新しい図書館に向けて基準を作っておくことは大事なことだと思う。なかったものを作ることは大変だっただろうが、いつもみんなで相談という訳にもいかないだろうし必要だと思う。

【事務局】

他の市町でも、蔵書計画を立てている所と立てていない所があり、立てている所が少ない。

【中川委員】

県立図書館にはない。

【事務局】

市民からリクエストはいただくものの、税金で好きなものを図書館の職員が趣味で買っているのではないかと勘繰る人がひょっとしたらいるかもしれない。そういった時に計画の中で収集するところはする、控えるところは控えるということが明らかにわかる方が市民への説明もできると思う。

【事務局】

体系立てて集めないとせっかくいい本があってもバラバラになってしまっはいけない。また、スタンダードな本はきちんと揃えておく必要がある。わりときちんと揃っているジャンルもあれば、そうでないものもある。一律な指標を作れば、一定水準の蔵書構成ができるのではないか。そういった観点で新図書館に向けてこういう形で整理させていただいた。

【委員長】

11 ページの指摘について、永年保存対象でないと永年保存対象としないでは、若干インパクトが違うと思うがどうか。

【田中委員】

言われるまで気がつかなかったが、確かにそうである。

【中川委員】

あまり対象でないという言い方はしないと思う。読んでいて違和感があった。他人事のような感じに聞こえてしまう。自分たちがしないと決めるのではないのか。宣言するのだから、はっきりするのがよいと思う。

【委員長】

それはまたご検討いただくことをお願いする。他の部分についてはどうか。

- 【田中委員】 今の時代なので計画が必要になってくる部分である。インターネットがあるので蔵書が詳しくわかるようになったが、昔であればわからなかった。合併前の関町ではない本が多かったので、言えばすぐに買ってもらえて増えていた。リクエストしたら買って増やしていく。それがあまりにも多くてボランティアに駆り出されて今に至っている。今のようインターネットがあつたら、新しい本であつたら買わずに他の図書館から取り寄せてということになっていただろう。ブームになった本は何冊も買うと聞いた。
- 【中川委員】 今は1冊である。小説も昔は買っていたが、今は買っていない。津市や他の市立図書館にお任せすることになっている。
- 【田中委員】 学生時代のことだが、ブームが過ぎて余剰した本を何度もリサイクルしてもらったことがある。
- 【委員長】 棲み分けも大切である。同じ本がいくつもあつたらそういうことが起こる。
- 【中川委員】 津にいと、図書館が二つあつてよいと言われがちで、予算がなくなってきたのも原因ではあるがその辺りも意識している。
- 【委員長】 市町で買えない本を県立で買っているの、市でなければ県立に探しに行こうとなる。交流すればよい。
- 【中川委員】 貸し借りはできるので、できるだけそうしている。
- 【委員長】 事務局としてはどうか。
- 【事務局】 ご指摘いただいた点はごもっともなことばかりで、思いが至らぬ点が多かったと改めて感じた。
- 【委員長】 もとがあつて作るのであれば楽だが、最初から作るのは本当に大変だと思う。まだちょっとぼやけているところとかご指摘があつたところはもう少し具体的な内容を入れていくと全体がはつきりしてくると思う。検討をお願いしたい。
- 【事務局】 ご指摘いただいた内容を検討し、修正する。

(2) 新図書館整備事業の進捗状況について

- 【事務局】 亀山市立図書館実施設計(案)の平面図(案)、管理運営の基本的方針(案)について説明。

(3) 臨時休館日の設定について

- 【事務局】 ゴールデンウィーク期間(4月29日から5月6日まで)の連続開館後の臨時休館日の設定について説明。
- 昨年度は、ゴールデンウィーク明けの1日と図書館情報システム更新の3日、全国図書館大会の1日を臨時休館とさせていただいている。
- 【田中委員】 十分ゴールデンウィークを開館しているの、休館してもよい

のではないか。

【委員長】 世間の流れからも妥当ではないか。これでもまだ少ないように思う。委員会としては了承する。

3. 報告事項

(1) 図書館利用状況について

【事務局】 図書館利用状況について報告。

入館者数、貸出人数、貸出冊数ともに減少してきている。何かイベントをしたとしても滞在をしない傾向がある。イベントの持ち方を考えなければならないかもしれない。

(2) 図書館まつりについて

【事務局】 図書館と青少年研修センター2階研修室を利用し、ほぼ終日開催し入館者は約800名。当日はたくさんの親子づれに来ていただき、賑わった。しかしながら貸出冊数には結びつかなかった。

ゆっくり滞在しようとする、たくさん人が居すぎるとゆったりできないという風潮があったのではないか。また、図書館と青少年研修センターで実施したイベントで、同じ時間帯のものがあつたため、両方行きたかったが行けなかったとの声もあつた。

ボランティアの方々からもたくさんの意見を賜っている。来年度に向けても第3回図書館まつりを行っていきたいと思っている。課題点や良かった点を活かして次のイベントにつなげていきたい。

参加されたボランティアの方から、図書館職員もイベントに参加しないのか、何か催しをしないのかとご指摘を受けているところである。ただ現状、言い訳にしかならないが窓口対応など館を運営していくだけで手いっぱい、私どもがそこで読み聞かせをするなど何かを行うことは非常に難しい。そういう中で、スタンプラリーや図書館システムの利用講座などの取り組みを行ったが、ボランティアの方々にとっては物足りなかったとのご意見を賜ったことをご報告させていただく。

【事務局】 スタンプラリーに参加いただき、3個以上スタンプを集めていただいた方には簡易なプレゼントをさせていただいた。手作りのリーディングトラッカーとしおりである。リーディングトラッカーは、クリアホルダーを切って、マスキングテープを張り付けたものである。字が見える部分が1cmで子どもの教科書の幅になっている。大人であれば7ミリ程度の幅でよい。普段はしおりとして使えるように、裏面は字を読む時に気にならないように派手ではないテープを張っている。本のページに当てるだけで読み

たい行に視点を集中することができるというもので、特別その人用というのではなく周りのみんなが使っていたら、字が読みづらい人も気にせず使ってもらえるのではないかという思いから、職員が作って配らせていただいた。

人によって色の見やすさが違うということも聞かせてもらっているので複数の色で作らせてもらった。

【田中委員】

子どもは喜んでいたか。

【事務局】

リーディングトラッカーとしおりのどちらかをどうぞとご案内したが、子どもはリーディングトラッカーをたくさん持って帰っていた。

(3) 図書館ワークショップについて

【事務局】

昨年度までは、基本計画に基づく施設のゾーニングの検討などハード面を中心としたワークショップを開催していたが、今年度は暮らしのなかにもっと図書館や読書を取り入れてもらうことを目的に、ソフト面を重視したワークショップを計画した。

まず2/9に朗読のワークショップを開催した。37名の参加者が実際に朗読を体験し、手法を学んでいただいたが、大変好評であった。今後、新図書館に向け、何らかの形で朗読の取り組みを続けていけたらと考えている。

また、3/1に市内在住の絵本作家を迎えてトークショーという形で開催を予定している。「トーキョードリームマラソン」という絵本が2月26日に刊行されるタイミングで、制作秘話や取材時の様子などをお話いただく予定である。いろいろなことに興味をもってもらい、図書館の資料を利用してもらえるきっかけの一つとなるようにと考えている。

4. その他

【事務局】

エントランス、ミニコーナーのテーマ展示について説明。

テレホン童話サービスの取り扱いについて説明。一定のサービス提供につながってはいるものの、機器の老朽化が進んでおり、いつ故障するかわからない。またサービスを担っていただいているボランティア団体の亀山絵本と童話の会の会員も、いろいろな活動をされていてなかなかテレホン童話に集中できないなど会の事情の申し出もある。機器の後継機もあるが、社会情勢から電話を用いたサービスではなく、新たな情報発信の手段を考えている。具体的にはYouTubeを用いたものになると思われるが、現状からみて即時の実行は難しい。テレホン童話のもとになっている創作童話をCD化し、必要な人に貸し出すような手法に置き換えるこ

とを検討している。その先が YouTube など で発信して、より多くの方に聞いてもらいたいと考えている。そのため、テレホン童話サービスは、この3月末をもって終了したいと考えている。

蔵書計画など新図書館に関係することについて、たくさんのご意見を賜りました。ありがとうございます。今後も新図書館に向けて市民みんなが喜んでもらえる図書館、職員が自慢できるような図書館にしていきたいと思うので、今後ともご意見を賜りたい。この場だけではなく、気づいたことがあれば私ども、あるいは生涯学習課までご意見賜りますよう引き続きよろしく願いいたします。

15時30分 終了